

日本ナサニエル・ホーソーン協会資料室
田島優子 (宮城学院女子大学)
堀切大史 (日本大学)
奈良裕美子 (公立諏訪東京理科大学)

I. Books

- 青山義孝『ピンクのリボン——ホーソーン論』デザインエッグ社 (2017)
伊藤詔子『ディズマル・スワンプのアメリカン・ルネサンス——ポーとダークキャノン』音羽書房鶴見書店 (2017)
入子文子 (編著)『ホーソーン研究』5 ホーソーン研究会 (2018)
大島由起子『メルヴィル文学に潜む先住民: 復讐の連鎖か福音か』彩流社 (2017)
塩田弘・松永京子・浅井千晶・伊藤詔子・大野美砂・藤江啓子 (編著) 上岡克己 (編)『エコクリティシズムの波を
超えて——人新世の地球を生きる』音羽書房鶴見書店 (2017)
諏訪部浩一『アメリカ小説をさがして』松柏社 (2017)
高野泰志『下半身から読むアメリカ小説』松籟社 (2018)
武田悠一『アレゴリーで読むアメリカノ文学——ジェンダーとゴシックの修辞学』春風社 (2017)
中西佳世子『ホーソーンのプロヴィデンス——芸術思想と長編創作の技法』開文社 (2017)
橋本安央『痕跡と祈り——メルヴィルの小説世界』松柏社 (2017)
鷺津浩子『文色と理方——知識の枠組み』南雲堂 (2017)
Horiuchi, Masaki. ed. *Thoreau in the 21st Century: Perspectives from Japan*. Kinseido (2017)

II. Bibliographies

III. Translations

- 橋本安央 (訳) ハーマン・メルヴィル著「ホーソーンと彼の苔」『痕跡と祈り——メルヴィルの小説世界』 pp. 259-300.

IV. Articles

- 尼子充久「『緋文字』における「植物」と「罪」の相関性：ポロックとの親和性を目指して」『埼玉大学紀要』52 埼玉大学教養学部 (2017) pp. 1-6.
伊藤淑子「『緋文字』におけるヘスターの演技と緋文字」『大正大学研究紀要』102 大正大学 (2017) pp. 231-44.
入子文子「ホーソーンと Heart の図像学」『関西英文学研究』9 日本英文学会関西支部 (2016) pp. 175-82.
--- 「Hawthorne と John Henry Newman——“The Great Stone Face”をめぐる」『ホーソーン研究』5 pp. 1-11.
後川知美「批評家としてのヘンリー・ジェイムズ ——『ホーソーン論』の場合」『宇部工業高等専門学校研究報告』63 宇部工業高等専門学校 (2017) pp. 8-17.
大野美砂「「ナショナルな風景」の解体——ホーソーンの「主として戦争問題について」をめぐる」『エコクリティシズムの波を超えて——人新世の地球を生きる』 pp. 67-80.
倉橋洋子「「優しい少年」にみるコミュニティにおける「共生」への可能性」『共生文化研究』2 東海学園大学 (2017) pp. 51-61.
栗山裕也「Hawthorne の “Feathertop: A Moralized Legend”における見物人、駄犬、子供」『ホーソーン研究』5 pp. 12-22.
小南悠「シンパシーの視線——19世紀シンパシー文化から読む「利己主義、もしくは胸中の蛇」」『フォーラム』23 日本ナサニエル・ホーソーン協会 (2018) pp. 1-17.

- 佐々木英哲「ジェンダーの彼岸で受容される他性、文壇の此岸で捏造される作家性：『緋文字』にホーソーンを読む」『サイコアナリティカル英文学論叢』37 サイコアナリティカル英文学会 (2017) pp. 97-122.
- 佐々木知彦「研究ノート Paul Auster の *In the Country of Last Things* に見るロマンス性」『ホーソーン研究』5 pp. 41-45.
- 高橋愛「「どこか女性的なところ」——ホリングズワースに反映されるジェンダー規範」『フォーラム』23 日本ナサニエル・ホーソーン協会 (2018) pp. 19-31.
- 田島優子「年次大会ワークショップ発表論文 ヒロインとしてのジョージアナ——ホーソーンの「痣」における精神の完全性をめぐって」『フォーラム』23 日本ナサニエル・ホーソーン協会 (2018) pp. 33-49.
- 中村善雄「ナサニエル・ホーソーンはポストヒューマンの夢を見るか」『エコクリティシズムの波を超えて——人新世の地球を生きる』 pp. 216-30.
- 濱田みゆき「「ラパチーニの娘——オベピーヌ氏の著作から」における感覚表現：言葉と声、音楽を中心に」『地域政策科学研究』15 鹿児島大学 (2018) pp. 97-116.
- 藤居真路「Nathaniel Hawthorne の Dr. Heidegger's Experiment におけるプロットの展開と文体論的特徴」『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』14 大学英語教育学会中国・四国支部 (2017) pp. 37-54.
- 藤吉清次郎「イーサン・ブランドとは何者か？：「イーサン・ブランド」論」『人文科学研究』22 高知大学人文社会科学部人文社会科学科人文科学コース (2017) pp. 37-51.
- 中谷ひとみ「セイラムのハムレット：若きグッドマン・ブラウンのための幸福の処方箋」『文化共生学研究』17 岡山大学大学院社会文化科学研究科 (2018) pp. 79-94.
- 中西佳世子「『七破風の屋敷』の噂する「群集」：呪いの予言と幸運な結末」『京都産業大学論集』50 京都産業大学 (2017) pp. 231-244.
- Ikuta, Kazuya. “Priscilla as a White Slave: The Representation and the Transformation of the Working Girl in *The Blithedale Romance*.” 『九州英文学研究』34 日本英文学会九州支部 (2018) pp. 11-18.
- Oda, Atsuko. “Emerson and Thoreau as Writers in Hawthorne’s Autobiographical Sketch, ‘The Old Manse.’” *Thoreau in the 21st Century: Perspectives from Japan*. pp. 200-15.
- Takeno, Fumiko. “‘Silence Was Audible’: Views on Music in the Works of Dwight, Thoreau and *The Blithedale Romance*.” *Thoreau in the 21st Century: Perspectives from Japan*. pp. 188-99.

V. Reviews

- 遠藤不比人『身体と情動—アフェクトで読むアメリカン・ルネサンス』（竹内勝徳・高橋勤 編）『アメリカ文学研究』54 日本アメリカ文学会 (2018) pp. 40-46.
- 大串尚代『アメリカ文学と革命』（井川眞砂・福士久夫・三石康子・村山淳彦 編著）『アメリカ文学研究』54 日本アメリカ文学会 (2018) p. 94.
- 小澤奈美恵『ジョン・ブラウンの屍を越えて—南北戦争とその時代』（松本昇・高橋勤・君塚淳一 編）『アメリカ文学研究』54 日本アメリカ文学会 (2018) pp. 34-40.
- 野崎直之『ナサニエル・ホーソーン伝』（ランダル・スチュアート 著、丹羽隆昭 訳）『フォーラム』23 日本ナサニエル・ホーソーン協会 (2018) pp. 59-65.
- 藤村希『身体と情動——アフェクトで読むアメリカン・ルネサンス』（竹内勝徳・高橋勤 編著）『Sky-Hawk』4（通巻31）日本メルヴィル学会 (2016) pp. 54-57.
- 古屋耕平『モンロー・ドクトリンの半球分割—トランスナショナル時代の地政学』（下河辺美知子 編著）『フォーラム』23 日本ナサニエル・ホーソーン協会 (2018) pp. 51-58.
- 増田久美子『内と外からのアメリカ共和国の現実と女性作家たち』（大井浩二 著）『アメリカ文学研究』54 日本アメリカ文学会 (2018) pp. 73-78.

山本秀行『モンロー・ドクトリンの半球分割—トランスナショナル時代の地政学』（下河辺美知子 編著）『アメリカ文学研究』54 日本アメリカ文学会 (2018) pp. 62-69.

若林麻希子『ホーソンの文学的遺産—ロマンスと歴史の変貌』（成田雅彦・西谷拓哉・高尾直知 編著）『アメリカ文学研究』54 日本アメリカ文学会 (2018) pp. 56-62.

VI. Essays & Miscellanies

青井格「九州支部研究会」『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 17.

上原正博・藤村希「国際渉外室だより」協会ホームページ

倉橋洋子「中部支部研究会」『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 16.

鈴木孝「東京支部研究会」『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 15.

--- 「事務局だより」『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 18.

高尾直知「編集室だより」『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 19.

高橋利明「会長挨拶」『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 1.

田島優子「資料室だより」『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 19.

成田雅彦「国際ポー・ホーソン会議のお知らせ」『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 20.

--- 「阿野先生を偲ぶ」『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 21.

西谷拓哉「関西支部研究会」『NHSJ Newsletter』36 (2018) pp. 16-17.

丹羽隆昭「阿野先生のこと」『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 21.

Herbert, T. Walter. “Tribute to Professor Fumio Ano.” 『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 23.

Koizumi, Bon. “Applying Lafcadio Hearn’s Literature in Initiatives for Community-Based Tourism and Regional Education in Matsue and Yaizu.” 『NHSJ Newsletter』36 (2018) pp. 7-10.

Kominami, Yu. “Roderick Elliston’s Gaze and the Unpardonable Sin: ‘Egotism; or, the Bosom Serpent’ as a Pardon.” 『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 2.

Motooka, Asako. “Louisa May Alcott and Her Scrapbook.” 『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 13.

Okawa, Jun. “The Representations of Skin in ‘The Birth-mark.’” 『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 6.

Pfister, Joel. “Reflections on Professor Fumio Ano.” 『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 22.

Sadahiro, Maki. “Fin-de-siècle British Socialism and Nathaniel Hawthorne.” 『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 14.

Senoo, Tomomi. “A Threatened Peace: The Neoplatonic Theory of Love and Hawthorne’s ‘The Birth-mark.’” 『NHSJ Newsletter』36 (2018) pp. 4-5.

Shirakawa, Keiko. “The ‘Witch-Hunting’ in Manhattan: From Salem to New York.” 『NHSJ Newsletter』36 (2018) pp. 11-12.

Takahashi, Ai. “Something of the Woman: Gender Protest in *The Blithedale Romance*.” 『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 3.

Takao, Naochika. “Margaret Fuller’s ‘Conversations’ as a Community Where ‘Love’ Could Be Realized.” 『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 12.

Tashima, Yuko. “Spiritual Perfection Reconsidered: Georgiana’s Counter-Narrative in Hawthorne’s ‘The Birth-mark.’” 『NHSJ Newsletter』36 (2018) pp. 5-6.

Tatsumi, Takayuki. “Wish You Were Here: Professor Fumio Ano and His Publications.” 『NHSJ Newsletter』36 (2018) pp. 24-26.

Uehara, Masahiro. “Reading ‘The Birth-mark.’” 『NHSJ Newsletter』36 (2018) p. 4.

※論文の記載漏れなどお気づきの点がございましたら資料室担当者までお知らせください。また、論文などを執筆された際には資料室に一部お送りいただくか、あるいはタイトルなどを資料室担当者までお知らせください。